

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3690168269		
法人名	株式会社グレイスウエルネス		
事業所名	グループホームサムデイワルツ		
所在地	徳島県徳島市川内町平石若松95番地		
自己評価作成日	令和4年1月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和4年2月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所では利用者様に「明るく楽しく安らぎと幸せを実感」を基本に毎月の行事では毎年職員が色々と考え新たな催しを行っています。文化祭出展作品作りを行ったり郵便局に作品を展示させて頂いて地域の方々にご意見を頂いたりしています。家庭的な雰囲気の中で安心して過ごして頂けるよう毎週の主治医の往診と県の訪問看護協会との24時間オンコール体制と1階と2階、隔週での訪問を行って頂き衛生管理、身体管理を行っています。環境面では草花を育て、季節ごとの野菜も育て利用者様には、水やりのお手伝いをして頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周囲に田畑が広がる、のどかな環境のなかに位置している。利用者の人格を尊重し、一人ひとりが必要とするサービスの提供を目指すことを理念として掲げている。地域とのつきあいを大切に、地域の清掃活動等に参加している。年1回、地域の郵便局に利用者の作品を展示することが、恒例の行事となっている。作品とともにノートを設置し、地域住民に作品の感想を記入してもらうことで、利用者の励みや地域との繋がりになっている。新型コロナウイルス感染症の流行下において、書面による運営推進会議を開催し、各委員から意見を得て、集約し、職員間で話しあうことで、サービスの質の向上に活かしている。代表者や管理者は、職員と積極的にコミュニケーションをとり、課題や改善点の把握に努め、職員が働きやすい環境の整備に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			1階	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で地域密着型の理念の意義をふまえた支援に取り組んでいます。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成している。理念は、事業所内に掲示するとともに、月1回、職員間で話しあう機会を設け、周知・徹底を図っている。家族等には、契約時に理念について説明している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、地域の方々との交流は出来ませんが、神社の清掃活動に参加し、廃品回収のお手伝いをさせて頂いています。	事業所は、自治会に加入し、地域の清掃活動や廃品回収に参加している。食材を購入する際には、地域の店舗を利用している。感染症(コロナ等)の流行下においても、地域のボランティアや幼稚園と連絡を取りあい、交流を継続している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用様がレクリエーションで作成した作品を、一年に一度、郵便局に、展示させて頂き、皆様にご覧になって頂いています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では外部評価での結果を報告し、今後の取り組みについて話し合っています。研修報告書、運営推進会議で出された意見を日頃のケアにも反映しています。コロナ禍の為、講師の先生をお招きしての勉強会は出来ていません。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行下においては、各委員に、事業所の報告等を書面で送付し、意見を得ている。出された意見は、議事録に記載し、職員間で共有することで、サービスの質の向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者様や包括支援センター担当者様とは日頃より頻りに相談させて頂いており、丁寧な説明や指導をさせて頂いています。	職員は、感染症の流行下において、郵送により、市担当者や地域包括支援センターに実績報告等を行っている。必要に応じて、担当課以外とも連携を図りつつ、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を立ち上げ、新入職員には身体拘束についての勉強会を行い、カンファレンス時、毎月のように、身体拘束についての話し合いを行っており、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。家族様にもその旨お知らせしています。	事業所では、定期的に身体拘束廃止委員会や勉強会を開催している。毎月のカンファレンスでは、安心・安全なケアの具体的な内容について話しあっている。事業所の現状を認識し、利用者が閉塞感を感じることがないように支援に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を立ち上げ、虐待について職員は理解していますが、外部研修に参加しカンファレンスで研修報告をして職員全員で共通認識を深めています。言葉の虐待についてもカンファレンス時に接遇マナーを学ぶ施設研修を行っています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新しく入居された利用者様には権利擁護の説明をしており相談された時には個別に対応もさせて頂いております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時にはご本人様や、ご家族様に不安な事やご要望を尋ね契約事項に沿って十分な説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会等で要望を尋ね近況報告などで担当者は改善の報告をしたりして一人ひとりのコミュニケーションに努めています。	職員は、日ごろの支援のなかで利用者の意見や要望を聞いている。家族には月1回の便りや随時の電話連絡等で、利用者一人ひとりの状況を伝え、意見や要望を出しやすいよう工夫している。出された意見等は職員間で検討し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営者はカンファレンスに参加し管理者は日頃より職員の意見や要望に耳を傾け、すぐに改善を伝えるようにしています。話し合いが必要な内容についてはカンファレンスで話し合う機会を設けています。	管理者は、日ごろから職員が意見や提案を出しやすい雰囲気づくりに努めている。職員へアンケートをとったり、気づきや改善点等を共有するノートを作ったりして、意見等を引き出している。出された意見をもとに職員間で話しあい、マニュアルの見直しを行うなど、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則により、子育てや介護、病気等に関する規定を設けている。また、特例的な措置にも対応可能な体制を構築しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には順次、研修を受ける機会を設けています。またサービスの質の向上に努めている。カンファレンス時にはケアで気づいた点、改善した点等を共有出来るよう話し合いの場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流により情報交換に努め、施設で活かせる取組を行っています。		

自己	外部	項目	1階	
			自己評価 実践状況	外部評価 実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			外部評価 次のステップに向けて期待したい内容	
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様や、ご家族様の希望や、困っている事に耳を傾け生活歴の把握をし信頼関係の構築に向けコミュニケーションを図り、要望に沿った支援を行っています。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご自宅や他施設での生活について聞き取りをし、ご家族様が一番困っている事や不安な事を伺い、相談されるご家族様の立場になって、今後の方針について話し合っています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設入所前の生活で困っていた事、またどのようなサービスを求めているのかを話し合い、事業所で行なうサービスが実践出来るよう支援しています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の生活において常に行動を共にして、役割分担をする事で職員が助けられる場面が、生活の色々な場面で見られており、共に学び、支え合い、信頼関係が築けています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為、面会は出来ませんが、近況報告を通して季節の行事ことや、利用者様の悩みや望みをお伝えし、職員とご家族様が共に利用者様を支えていけるように支援しています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、今はできておりませんが、入所時には面会についての希望をお聞きして友人や近隣住民の方との面会が円滑に行えるように支援しています。利用者様一人ひとりの希望や要望に応じた支援を心掛けています。	事業所では、感染症の流行下において、電話や手紙のやりとりを支援している。友人や知人の来訪があった際には、安全面に配慮し、顔をあわせることができるよう支援している。馴染みの人や場所への思いを継続できるよう、話題に挙げるなど工夫している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者様同士の関係がうまくいくように利用者同士の関係を把握し、利用者様同士の関わり合いや支えあいを把握し、孤立しないように心掛けています。	

自己	外部	項目	1階	
			自己評価 実践状況	外部評価 実践状況
				次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が入転院に至った際には、今は、コロナ禍の為、出来ていませんが、お見舞いに行くようにしています。住み替えが必要となった場合はフェイスシートの作成をし、また、退所後も、ご家族様がお便りを下さったり近況が伺えている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日頃より利用者様とコミュニケーションを図り支援を行っており利用者様一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めています。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者の表情や何気ない一言から思いや意向の把握に努めている。意思の表出が困難な利用者については、本人本位に検討している。利用者のやりたいことを大切に、実現できるよう職員間で話しあっている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の馴染みの暮らし方、生活環境を本人様やご家族様よりお聞きし情報収集しサービス利用の経過等の把握に努めています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの得意な事、能力に応じた役割分担、体操やバイタルチェック、会話などコミュニケーションによる体調不良の早期発見に努めています。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様から希望やご要望をお聞きし職員と話し合い、ご本人様の現状に即した介護計画作成に努めています。	事業所では、利用者や家族等の意見を反映し、その人らしく暮らし続けるための介護計画を作成している。計画作成の際は、医師や関係者からも助言を得ている。毎日、実施状況を評価し、月1回、モニタリングを行っている。随時、利用者の心身状況の変化に応じて、見直しを行い、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護計画を活かしたケアの実践、気づきや工夫を生活記録や日誌に記入して職員間で情報の共有し実践や介護計画の見直しに取り組んでいます。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の入院や病院受診時など、その時々状況に応じてご本人様ご家族様の要望に対して柔軟な対応に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理美容は出張理美容を利用して頂き歯科受診が困難なご利用者の心身状態に対応を心がけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様と相談させて頂いた上でかかりつけ医や納得された医療機関の受診をして頂いています。適切な医療を受けられるように支援しています。	事業所では、利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門医の受診は、家族等の協力を得て支援し、情報を共有している。協力医療機関と夜間や緊急時の連携体制を整え、適切な医療を受診できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	県訪問看護協会の訪問看護師との連携により週一回の訪問看護にて健康管理をして頂いている。一人ひとりの利用者が適切な受診や看護を受けられるように医療機関や訪問看護協会との連携を図っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様に状況確認をさせて頂き、コロナ禍の為、電話にて病院関係者との関係作りや情報交換をし退院の予定や今後について話し合うようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期について早い段階からご本人様ご家族様と相談し協力医療機関とも相談しながら今後の治療方針や看取りについての方針を確認させて頂きチームで支援に取り組んでいます。	事業所では、契約時の段階で、利用者や家族等に重度化や終末期における事業所の方針について説明している。研修を開催したり、カンファレンスで話しあったりして、利用者や家族等の意向にそえるよう努めている。利用者の心身状況の変化に応じて、家族等や職員、医療機関と方針を共有し、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンス時に勉強会を行い緊急時の対応、事故発生時に備え応急手当や初期対応の手技や方法を身に付けています。また、AEDの使用方法についても専門の方を招き勉強会を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い、避難場所を協力病院と決めています。災害の多様化に対応できるように地域住民の協力を得られる体制作りを目指しています。	年2回、日中と夜間の火災や地震、津波を想定した避難訓練を実施している。感染症の流行下においては、地域住民の参加を見合わせているが、協力依頼の文書を出すなどして災害時の役割を決めている。水や食料、衛生用品等の備蓄品を整備し、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価	1階	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用様の自尊心やプライバシーを損ねないように言葉かけや対応には十分な配慮をした支援を心がけています。	職員は、理念にそって、利用者一人ひとりを尊重した支援に努めている。さりげない声かけや声量等に注意し、プライバシーを損ねることのないよう配慮している。入浴支援の際には、介助を行う職員の名前を伝えるなど、安心感に配慮した声かけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、その時々言葉や表情から読み解き理解し、自己決定が出来るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりのペースに合わせて生活して頂けるように言葉かけや支援を行っています。今はコロナ禍の為、出来ませんが、散歩や買い物、外食等希望に沿った支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容ケア、季節に応じた衣類の選択、入浴後の肌のお手入れや髭剃り等整容やお洒落などを支援しています。入居者様とご家族様の好みにより、訪問理容訪問美容を選んでいただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューはご利用様の希望や好みのメニューを取り入れ野菜の皮むき、豆のすじとりなどを日常的に頂いています。小鉢の盛り付けやテーブルを拭いたり職員と共に準備し、後片付けをしています。	事業所では、利用者の好みや栄養を考慮し献立を作成している。利用者には、野菜の皮むきや盛りつけ、後片づけ等、できることで参加してもらいつつ、一緒に調理している。行事食やおやつづくり、菜園での収穫など、食に関する楽しみを持つことができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量を記録し一日の摂取量を満たしています。入浴後、体操後等、水分補給して頂き食事量が少ない利用者様が食べやすいように形状工夫したりご家族様に了解を得て栄養補助食品を提供したり一人ひとりに合わせた支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態を把握した口腔ケアや生活習慣を取り入れ、毎食後の歯磨き支援や義歯使用の方には夕食後洗浄剤の使用にて消毒を行い清潔保持に努める支援をしています。		

自己	外部	項目	1階		
			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様一人ひとりの能力に応じた支援を心掛け排泄のサインを見逃さず、パターンや時間を把握し、出来るだけトイレで気持ちよく排泄出来るよう支援しています。また、ご家族様の意向に添った支援にも心掛けています。	職員は、排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。さりげない声かけでトイレ誘導し、排泄の自立に向けて取り組んでいる。夜間は、状況に応じて、ポータブルトイレを利用するなどして、排泄が心身の負担にならないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちの方が多く理解したうえで軟化剤の服用や運動、水分摂取、食物繊維、果物、乳製品等摂取して頂き便秘の予防を行っています。便秘もマイナス3日で排便して頂けるよう、排便のチェックを毎日行い対応。申し送りもしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご入居者様一人ひとりの希望や体調、状態に応じて入浴をして頂いています。入浴を拒むご利用者様には職員を替えたり、時間を変えての言葉掛けを行い、理由を聞き対応しています。	事業所では、少なくとも週3回の入浴ができるよう支援している。入浴を拒む利用者には、支援する人や時間を変えるなどして、無理強いすることがないように工夫している。羞恥心に配慮し、希望に応じて同性介助を行っている。ゆず湯や菖蒲湯を行い、入浴を楽しむことができるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣の把握をし、一人ひとりの対応を心がけ、日中の環境を整え夜間の安眠につなげる支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用途容量を理解し、症状の変化や安定について職員間で話し合い毎週の主治医の往診や隔週の訪問看護時には報告しています。投薬時の確認も厳重に行い変更時間違いないよう職員間で情報の共有を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の好みや生活習慣に合わせた役割分担が出来ており、得意分野での活躍を生きがいや励みにされ生活されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、行事のお花見や遠足の為に外出出来ませんが、施設内で色々と考えて行事を行っています。	事業所では、気候の良い日に散歩に出かけたり、季節の花見に出かけたりしている。感染症の流行下においては、庭で日光浴や菜園の手入れを行うなどして、外気にふれる機会を設けている。また、事業所内で体操やレクリエーションの機会を設け、体を動かすことで気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	1階	
			自己評価 実践状況	外部評価 実践状況
				次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、ご利用者様が、お金を持ち管理することの大切さを理解しており、ご家族様と相談し希望や能力に応じて所持していただいている。コロナ禍の為、買い物や外出はできていません。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様が携帯電話を用意されているご利用者様については要望に合わせ連絡の支援をさせて頂いております。また、固定電話からの仲介役となったり、季節のお便り、手作りお手紙の支援もさせて頂いております。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には庭やプランターで咲いた草花を生けたり、玄関や中庭、花壇では季節ごとの草花を育て穏やかで心地良い空間の提供を。リビングではできる限り馴染みのある空間づくりを目指し、浴室やトイレは分かりやすい表札での案内をしています。	共用空間は、明るく、広々としている。壁面には、利用者と職員と一緒に作成した季節の作品や絵を飾り、季節感や華やかさのある雰囲気づくりを行っている。大きなソファを設置し、利用者がくつろぐことができる場所を設けている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファやダイニングテーブルの椅子に座られ気の合った仲の良いご利用者様でパズルや塗り絵をしたり、会話をたのしまれています。ひとりでも折り紙をおったり思い思いに過ごせるようにしています。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様との写真や趣味や好みの装飾品、テレビ、冷蔵庫、扇風機等、ご本人様が用意されています。職員は利用者様と相談し、ご家族様に要望を伝える支援をしています。	居室には、利用者の使い慣れた家具や調度品を持ち込んでもらっている。また、家族の写真や好みのものを飾り、利用者が落ち着いて過ごすことができる居室づくりに取り組んでいる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の洗面所、トイレ、洗濯場等の共有部分には目印をかけたり、歩行ルート of 安全確保をして、安全かつ自立した生活が送れるように工夫している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で地域密着型の理念の意義を踏まえた支援に取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に1回の地域の廃品回収に協力。地域の幼稚園のエコキャップ集めに協力。廃品回収のトラックへ包み込みに職員2名協力。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	郵便局へ、1年分の入居者さんの作品を11月中飾って頂き、地域の方への認知症の方への理解を得ています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、外部評価での結果を報告し今後の取り組みについて話し合っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者様や地域包括支援センター担当者様とは、日頃よりご相談させて頂いております。丁寧な説明や指導をさせて頂いております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3ヶ月1回開催。新人研修では、レポート提出。勉強会開催しています。①切迫性②非代替性③一時性から身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会は、毎月開催。虐待についての資料。勉強会開催。全員で共通認識。言葉の虐待について、接遇マナーについて学ぶ研修を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新しく入居された利用者様の家族様には権利擁護の説明をしており相談された時には個別に対応させていただいています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約提携時にはご本人様や、ご家族様に不安な事やご要望を尋ね契約事項に沿って十分な説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より面会時等で意見や要望を毎月1回の近況報告等でも担当者は改善の報告をしたりして個々でのコミュニケーションも図っています。運営推進会議や家族会は、コロナ禍の為、書面にて報告し返信用ハガキで、ご意見を伺っております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営者はカンファレンスに参加し管理者は日頃より職員の意見や要望に耳を傾け、直ぐに改善を伝えるようにしています。話し合いが必要な内容についてはカンファレンスで話し合う機会を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則により、子育てや介護、病気等に関する規定を設けている。また、特例的な措置にも対応可能な体制を構築しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には順次、研修を受ける機会を設けており外部研修に参加し職員のスキルアップ、またサービスの質の向上に努めている。カンファレンス時にはケアで気付いた点、改善した点等を共有できるよう話し合いの場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流により情報交換に努めサービスの質の向上に努め、施設で活かせる取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様や、ご家族様の希望や、困っていることに耳を傾け生活歴の把握をし信頼関係の構築に向けコミュニケーションを図り、要望に沿った支援を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご自宅や他施設での生活について聞き取りをし、ご家族様が一番困っている事や不安な事を伺い、相談される家族様の立場になって、今後の方針について話しあっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設入所前に困っていた事、またどのようなサービスを求めているのかを話し合い、事業者で行うサービスが実践できるよう支援します。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において常に行動を共にし、役割分担をする事で職員が助けられる場面が、生活の色々な場面で見られており、共に学び、支えあい、信頼関係が築けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告をし施設の行事時や、お便りなどでも悩みや望みをお伝えし、職員とご家族様が共に支えて行けるように支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時には面会についての希望を、お聞きして友人や近隣住民の方との面会が円滑に行えるように支援しています。コロナ禍で、現在は、制限は設けていますが、利用者様一人ひとりの希望や要望に応じた支援を心がけています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者様同士の関係がうまくいくように利用者様同士の関係を把握し、利用者様同士の関わりや支え合いを支援し孤立しないように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が入退院に至った際には職員がお見舞いに行くようしており、住み替えが必要になった場合はフェイスシートの作成をし、また退所後も、ご家族様が季節のお便りを下さったり近況が伺えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日頃より利用者様とのコミュニケーションを図り支援を行っており利用者様一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の馴染みの暮らし方、生活環境を本人様やご家族、面会者様よりお聞きし情報収集しサービス利用の経過等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの得意なこと、能力に応じた役割分担、体操やバイタルチェック、会話等コミュニケーションによる体調不良の早期発見に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様から希望やご要望をお聞きし職員と話し合い、ご本人の現状に即した介護計画に努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護計画を生かしたケアの実践、気づきや工夫を生活記録や日誌に記入して職員間で情報の共有し実践や介護計画の見直しに取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の入院や病院受診等その時々状況に応じて本人様ご家族様の要望に対して柔軟な対応に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理美容は出張理美容を利用させて頂き歯科受診が困難なご利用者様には訪問診療にて対応させて頂いています。ご利用者様の心身状態に応じた対応を心がけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族様から希望やご要望をお聞きし職員と話し合い、ご本人の現状に則した介護計画に努めています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	県訪問看護協会の訪問看護師との連携により週1回の訪問看護にて健康管理をして頂いている。個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように医療機関や訪問看護協会との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様に状況確認をさせて頂くと共に職員も交代で面会に行き病院関係者との関係づくりや情報交換をし退院の予定や今後について話し合うようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期について早い段階から本人様ご家族様と相談し協力医療機関とも相談しながら今後の治療方針や看取りについての方針を確認させて頂きチームで支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンス時に勉強会を行い緊急時の対応、事故発生時に備え「応急手当や初期対応の手技や方法を身につけています。また、AEDの使用方法についても専門の方を招き勉強会を開催したり、個々の消防署まで出向き講習をうけています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い、避難場所を協力病院と決めておりますが、災害の多様化に対応できるように地域住民の協力を得られる体制づくりを目指しています。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の自尊心やプライバシーを損なわないように言葉かけや対応には十分な配慮をした支援を心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、その時々言葉や表情から読み解き理解し、本人様の思いや希望の表出、自己決定が出来るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりのペースに合わせて生活して頂けるように言葉かけや支援を行っています。また、散歩や買い物や外食など希望に沿った支援を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容ケア、季節に応じた衣類の選択、入浴後の肌のお手入れや髭剃り等おしゃれ等を支援していきます。入居者様とご家族様の好みにより、訪問美容、訪問理容を選んで頂いたり、馴染みの美容室の利用もして頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは、利用者様の希望や好みのメニューを取り入れ野菜やミカンの皮むき、豆の筋取り、など日常的にして頂いています。小鉢の盛り付けをお願いしたり、あとは、食器を洗ったり、テーブルを拭いたり職員と共に準備し、後片付けをしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量記録し、1日の摂取量を満たしています。入浴後、体操後、水分補給して頂き食事量少ない利用者様が食べ易いように形状工夫したり家族様に了解を得て栄養補助食品を提供したり一人ひとりに合わせた支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態を把握した口腔ケアや生活習慣を取り入れ、毎食後の歯磨き支援や義歯使用の方には夕食後洗浄剤の使用にて消毒を行い清潔保持に努める支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人ひとりの能力に応じた支援を心がけ排泄のサインを見逃さず、パターンや時間を把握し、出来るだけ気持ち良く排泄できるよう支援しています。また、ご家族様の意向に沿った支援にも心がけています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちの方が多く理解した上で、緩下剤の服用や運動、水分摂取、食物繊維、果物、乳製品等摂取して頂き便秘の予防を行っています。便秘もマイナス3日で排便して頂けるよう、排便チェックを毎日行い対応。申し送りもしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様一人ひとりの希望や体調、状態に応じた入浴をして頂いています。入浴を拒む利用者様には職員を替えたり、時間を替えるの言葉掛けを行い、理由を聞き対応、必要であれば、ご家族面会時の入浴をお願いしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣の把握をし、個々の対応を心掛け、日中の環境を整え夜間の安眠につなげる支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用途容量を理解し症状の変化や安定について職員間で話し合い、毎週の主治医の往診や隔週の訪問看護には報告しています。投薬時の確認も厳重に行い変更時間違いの無いよう職員間での情報の共有を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の好みや生活習慣に合わせた役割分担ができており、得意分野での活躍を生きがいや励みにされている。今年も地域の文化祭に作品を出展する事が決まっております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は、年間行事としてお花見や、遠足を企画していましたが、コロナ禍の為、季節により筋力強化を兼ねた散歩もケアプランに取り入れ気分転換に繋げる支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、ご利用者様がお金を持ち管理することの大切さを理解しており、ご家族様と相談し希望や能力に応じて所持して頂いております。買い物に応じて支援させて頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様が携帯電話を用意されているご利用者様については、要望に合わせ連絡の支援をサービスさせて頂いております。また、固定の電話からの連絡の仲介役となったり、季節のお便り、手作りの手紙の支援もさせて頂いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、庭やプランターで咲いた草花を生けたり、玄関や中庭、日当たりのよい花壇では季節ごとの草花を育て穏やかで心地良い空間の提供を。リビングは出来る限りシンプルで馴染みのある空間づくりを目指し、浴室やトイレは分かりやすい表札での案内をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファやダイニングテーブルの椅子に座られ、気の合った仲の良い利用者様同士で会話をしたり、工作をしたり、一人でパズルをしたりと思い思いに過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様と写した写真とか趣味や好みの装飾品、テレビ、冷蔵庫、扇風機等ご本人様に合わせてご家族様が用意されています。職員は、利用者様と相談し、ご家族様に要望を伝える支援をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の洗面所、トイレ、洗濯場などの共用部分には、目印をつけたり、歩行ルート of 安全確保をして、出来る事、分かる事を活かして、安全かつ自立した生活が送れるように工夫している。		